

令和元年度会計状況の推移と今後の目標額について

1. 令和元年度決算額（明治記念大磯邸園整備事業分を除く）と財政推計の比較について

令和元年度の行政経営プラン実施計画は、約 3 億 7,900 万円の財源確保を行うことができる計画でしたが、その場合も実質収支では約 2 億 3,000 万円の不足額が生じる見込みでした。一方、令和元年度決算では、歳入から歳出を引いた差額が、約 9 億 1,900 万円のプラスとなっています。

令和元年度の歳入の推計と決算を比較した際、約 19 億 2,000 万円の増加となっています。歳入の増加要因としては、固定資産税の滞納整理による税収入、繰入金、繰越金、各種交付金の増加、各事業ごとに国・県支出金による財源を確保した等が挙げられます。

また、歳出の決算は、推計値と比較した場合、約 3 億 9,200 万円の増加となっています。推計よりも決算額が上回っていますが、主に基金への積立金の増によるものです。

行政経営プランで計測できる取組み以外も含めて鑑みると、歳入確保・歳出削減の取組みの成果は現れつつあると考えられます。

2. 計画額の見直し及び財源確保目標額について

(単位:千円)

実施項目	年次別計画額					
	H28	H29	H30	R01	R02	
A 歳入確保の取組み	42,515	107,875	104,787	40,918	26,039	5か年計 322,134
① 町税等の収入の確保	6,000	13,000	22,000	27,000	25,000	
② 受益者負担の適正化	60	320	190	300	400	
③ 公有財産の処分と活用	36,000	94,000	81,000	13,000	0	
④ 自主的な財源の確保	455	555	1,597	618	639	
B 歳出削減の取組み	90,019	95,118	273,103	337,743	371,679	5か年計 1,167,662
① 事務事業の見直し	14,800	26,450	149,160	159,800	170,110	
② 公共施設の再編	0	0	4,000	4,000	4,000	
③ 予算規模の抑制・縮小	35,484	68,668	119,943	173,943	197,569	
④ 定員・給与・組織の適正化	39,735	0	0	0	0	
C 財源確保額計 (A+B)	132,534	202,993	377,890	378,661	397,718	5か年計 1,489,796
D 年次別目標額	132,534	539,000	552,000	609,000	682,000	5か年計 2,514,534
E 実質収支 (C-D)	0	△ 336,007	△ 174,110	△ 230,339	△ 284,282	△ 1,024,738
	H28	H29	H30	R01	R02	
実質収支【当初】	0	△ 94,253	77,109	53,261	△ 26,844	5か年計 9,273
実質収支【R01末】	0	△ 336,007	△ 174,110	△ 230,339	△ 284,282	5か年計 △ 1,024,738
比較(R01-当初)	0	△ 241,754	△ 251,219	△ 283,600	△ 257,438	5か年計 △ 1,034,011

令和 2 年度実施計画においては、令和 2 年度は取組みを目標通りに実施できたとしても、約 2 億 8,400 万円の不足が生じる見込みです。現行の行政経営プランの実施は最終年となりますが、計画達成の見込みは低く、財政状況の健全化を図る上では、実施計画を計画通りに進めるとともに、現計画での反省等を踏まえ、実効性の高い新たな方策を定め、現計画での取組みを継続していくことが重要となります。